

福井大学
国際地域学部 4年

白川 咲香



留学先 // ベトナム(ハノイ)・
アメリカ(ニューヨーク)

留学期間 // 令和元年8月10日
～令和元年9月20日

①留学をしようと思った動機

私は大学3年次にマカオへ1年間交換留学をしたが、その経験を振り返ると、様々な失敗・成功を経験をし、自分なりに大きく成長したと感じたが、振り返った際に多くの後悔があり、やりきれたという実感がなかった。マカオ留学やこれまでの海外研修・視察でやりきれなかったことに挑戦するために、より刺激的な場所で留学にリベンジしたいという思いがあった。また、一番やりきれなかったと感じた語学面、特にスピーキング面を伸ばし、働く際に自信をもって英語をつかえるようになりたいという思いがあり、英語圏に短期間でもいいので留学したい、その際は絶対にニューヨークに行きたいと思っていた。また、これまでにタイとマレーシアで日系企業の工場を見学し人材育成について調査したことや、就職活動において各社で工場見学する機会も多く、日系企業の海外拠点について興味をもった。留学をすることで、他の国の人や日本各地の学生とつながりを持ち対話し、自身のキャリアについて考え、多くの刺激を受け、今後の人生の可能性を広げられると思ったため留学をしようと思った。

②留学の内容および成果

まず約1週間ベトナム・ハノイにある前田工織ベトナム(有)にてインターンシップを行った。工場での労働体験、品質管理のための実験、生産管理について話を伺うことで生産拠点としてのベトナムの魅力を調査した。その後5週間アメリカ・ニューヨークの語学学校に通い週31時間の授業を受講し特にスピーキングに力を入れ勉強した。また、ハノイ・ニューヨークにおいてパブリックアートを実際に訪れ調査することで、パブリックアートが地域創生の手段となり得るか考察し地域貢献の一助とした。

私はこの留学で、一歩踏み出すことで勇気を得られて自信につながるというのを学んだ。知り合いのいない飲み会に参加してみる、いつもと違う道から帰ってみる、派手な髪色にするなど毎日どんなことでもいいので一つ新しいことにチャレンジするという目標をたてて実行するようにしたことで、思いがけない良い出会い・新しい考えを得られたり、周りの目を気にしすぎずトライしてみようという気持ちになれて自分の殻を破ることができた気がした。これまではやってみたい、と思うだけで実際にはやらないことも多かったが、やってみたいと思ったことはとりあえず何でも挑戦することで、自分の意外な一面や新たな興味を知り自分の人生がより豊かになることを知った。また事前・事後インターンシップを経験したことで、仕事・働くことへの理解も深まり、社会人になるまでに自分の改善すべき点もわかった。

支援企業

前田工織株式会社